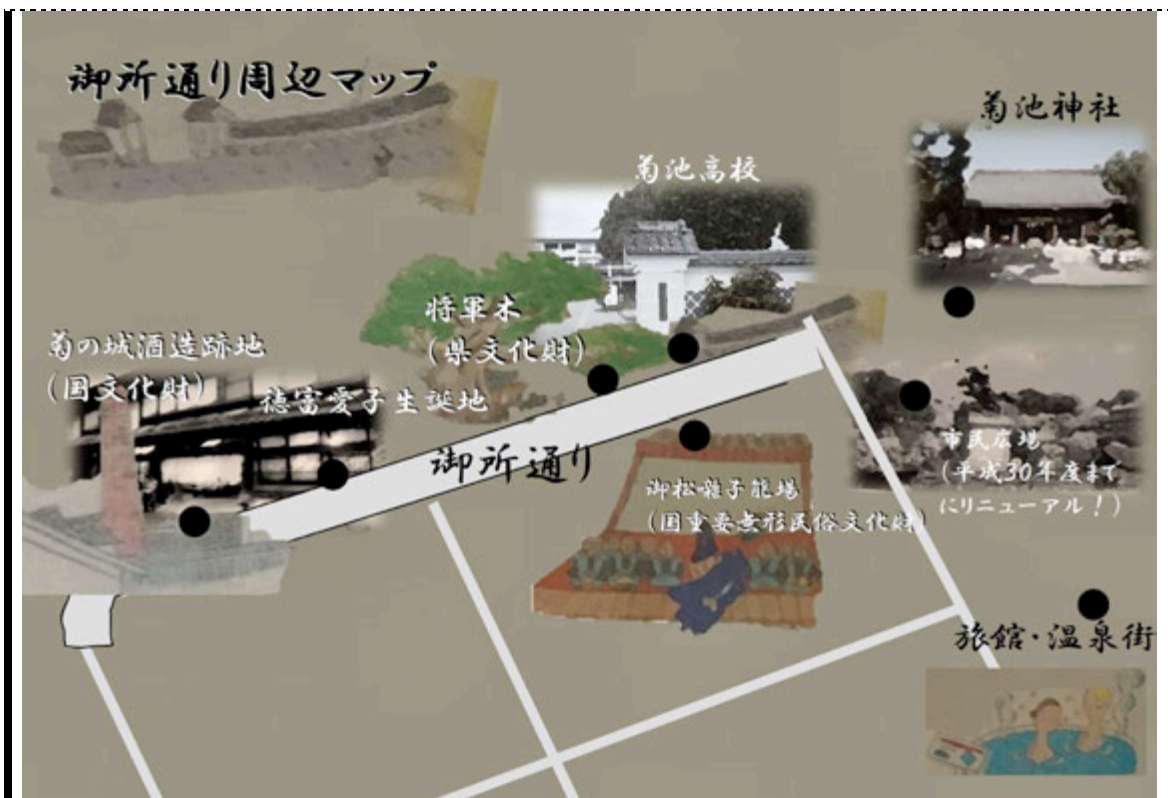


全体で A4 用紙 10 枚以内に納めてください。スペースは自由に動かして構いませんが、字数制限がある箇所は制限以内で記載してください。

チーム名・代表者氏名	へそまがり署・田代 浩二
発表テーマ (50 字以内)	あなたと歩きたくなる菊池のまち —あのすばらしい御所通りをもう一度—
提案概要を 400 字以内でまとめて記述してください。	
<p>菊池市隈府は、歴史に名を馳せた菊池一族により整備された街で、加藤清正によって政治文化の中心が熊本市に遷されるまで「隈本の府」として繁栄し、以降も現代まで県北有数の文化経済拠点都市でした。</p> <p>その核となっているのが御所通りという通りですが、近年は全国の例に漏れず居住者層の高齢化等により閉鎖店舗や空き家が増え、賑わいが薄れている現状があります。</p> <p>そこでまずこの御所通りに賑わいを取り戻し、菊池市の中心市街地、ひいては菊池市全体の活性化に繋げたい、というのが今回の提案です。</p> <p>御所通りには菊池独自の歴史が色濃く残されていますが、車で通過してしまっはその魅力に気付いてもらうことが出来ないの、徒歩でゆっくり散策してもらうような整備をおこなうことで魅力を知ってもらい、訪れてくれる人を増やします。</p> <p>そのために、歩く人に優しい環境づくりを進めます。</p> <p>御所通りに正門を構える菊池高校にも、菊池の歴史を良く知り、地域の人たちと積極的に関わられるよう、御所通りで文化祭を行うことを提案します。</p>	
提言の内容	
この提言で解決しようとしている問題・課題とその背景および、 <u>提言の目的を明確に記述</u> してください。	



御所通りは、菊池一族の21代重朝によって整備されたとされており、本城守山城の城下町として栄えた隈府の中心の通りです。加藤清正によって熊本の中心が現在の熊本市内に遷されたあとも、その歴史的背景や、日田方面への交通の要衝としての地理的条件もあって、在町として経済活動が許され、門前町、宿場町、商人町などの性格を併せ持った県北有数の拠点都市として近現代まで繁栄を続けてきました。

しかし、近年は居住者層の高齢化等により閉鎖店舗や空き家が増えており、御所通りに正門を構える県立菊池高等学校についても、少子化等の影響により、生徒数が減少しています。また、地元の方や店舗を訪れる方も自動車を使うことが多くなり、歩行者が通りづらい環境になってきています。

このような問題点の背景には、まず一つには、すでにある程度寂れが進んでしまっているため、店舗に空きが多い現在は店の前の設えを美しくしても効果が薄いのでやる必要はないと感じている。また広場整備、道路整備の予算がつきにくい、という点があります。もう一つには沿道の高校（若者）と商店街がお互いを生かしきれておらず、一体化できていない、という点です。

このような原因により、通りを歩く人が少なくなり、だんだんと賑わいが薄れていっている現状があります。これは御所通りだけの問題ではなく、こういった問題を抱えている街は県内・国内に数多くあります。

ただし、菊池、隈府の場合もっと個別の事案としての問題があるように思われます。それは、地域住民の方が、自分たちの地域の魅力に気付いていない、あるいは自信を持つことが出来ない、ということです。魅力があるのか。人が増える実感がない、できない。だ

から本当に人が増えるのか疑心暗鬼。商売に対して保守的になっているのではないのでしょうか？

新しいモノを造ってそこに人の流れをつくり出すことは、お金さえあれば簡単なことだと思います。しかし、個性ある豊かな歴史を持つ菊池だからこそ、その歴史を利用した活性化が必要であると考えます。というよりも、そのような方法で、地域の人たちの心の中かの歴史を繋いでいかなければ、これから先の菊池の歴史は書物の中に閉じ込められたものになってしまうのではないかと思われ、実はこのことが最も危惧されることではないかと思えます。

菊池で最も歴史ある御所どおりの歩行者が増えることは、菊池の市民のアイデンティティを認められることであり、この通りだけでなく市内全域の推進力の源にもなります。

そこで、御所通りを歩く人を増やすことで賑わいを取り戻し、ひいては菊池市全体の活性化に繋げていくことがこの提言の目的です。

提言の具体的な内容を記述してください。「誰が」、「何を」、「どのように」、「どのくらいの期間をかけて」を明確に、さらに、「いくらぐらいの予算をかけて」するのかについても言及があるとなお良いです。

まず、取り組みの一段階目として、御所通りには、將軍木、松倉邸、菊池松囃子能場、徳富愛子生誕地、国登録文化財菊の城酒蔵、など他の地域にはない菊池独自の歴史が色濃く残されていますので、これをきちんと整理していくつかの歴史散策ルートを設定します。それから、取りかかりとしてはウォーキング大会などを開催して情報発信します。

史跡案内の面では、既存のマップ、観光案内人の活用と併せ、ARの整備も進めて、スマホ、タブレットを持ち歩く人たちに対して充実した歴史案内ができるよう整えます。

また、近年健康づくりの取り組みとして行われているスマート・ライフ・ステイ事業とも連携して、農産物、食も取り込みつつ、歴史を楽しんでもらいながらの散策ウォーキングコースとしても活用していきます。

以上のような取り組みを行うことで、より多くの人たちに御所通りの魅力を知ってもらい、訪れてくれる人を増やします。このことが、地元住民にとって「あたりまえのこと」が、他地域からすれば「評価されるもの」として認識され、それが自信に繋がり、積極的な通りの活性化へ商店街自身が取り組もうという意欲の一助になることも考えられます。

自分たちの地域に対する自信にも繋がると考えます。

そして次の段階として、歩行者の増加という実績を積み重ねてから、歩く人たちにあって優しい環境づくりを進めていきます。具体的には、まずソフト面としては、歩く人たちに気遣いができるような車の運転にしてもらえよう、住民意識の向上を図ります。

また行政のほうでは、歩きやすい路面や定期的に一息つくことができる休憩所など、施設整備の面を進めていきます。御所通りの散策ルートを整備することにより以前より歩行者が増えれば、既存の店舗経営者の雰囲気も、その一時的な人の流れを常態化できないか

と検討する意欲が生まれると考えられます。空き店舗については、菊池ブランドの農産物を使用した食事、軽食などの出店を募り、商工会や農業生産者、グループなどと連携しながら積極的に支援していきます。これらの取り組みによって、それまで歴史的なもの、資源は多いが可能性の段階に留まっていたものが現実的なものとなり、歩行者の安全性や、車両の進入禁止措置、などの話が持ち上がるようになります。そうすると、それまで車で来る顧客がメインだった店舗にも歩いて来るようになります。

また、拠点性を今よりも更に多様化、レベルアップさせる形での市民広場の再整備や温泉街とも連携して人の動き、流れを創り出し、通過型ではなく滞在型になるような豊富な話題・題材を発信していきます。

一方で、御所通りに正門を構える菊池高校についても、校外に出て、御所通りを使っての文化祭を企画することで、展示や出店、また表現する場所を選ぶ中で、そこがどのような意味を持ってきた場所なのか？といったことを地域の方々とかかわることで学び、コミュニケーションを通じて地域の人たちと積極的に関わりを持てるような、「すごく忙しいけれど社会に出て役立つ充実した生活を送れる高校」としての独自性を打ち出し、生徒の確保に努めてはどうかと提案します。これは、歴史の街である菊池の中心市街地に位置する菊池高校にしか出来ないことであり、あるいは、隈府の街全体が、地域の人々とともに営む菊池高校のフィールドである、という考え方もできるので、地域が学校を育て、学校が地域を育てるというミックスアップ効果も得られるのではないかと考えます。

提言を実装したときに、期待できる効果はどのようなものですか。

御所どおりの魅力を発掘し、歩く人を増やすことで、御所どおりの沿道の商店が活性化するのはもちろんですが、隣接する市民広場の価値の広がり、さらに通りの魅力が上がることで沿道にある菊池高校の「地域の方に愛され、地域とともに成長していく学校です」という「地域の成長」が高校の成長につながる理念を体現することもでき、同時に相乗的な魅力アップが期待されます。

5年後

軽トラ朝市に併せて、あるいは単独で定期的に史跡散策ウォーキングやサイクリング（ポタリング）を開催し、同時に歴史的な建物が公開されることで菊池市街地がにぎわうようになります。観光案内人の人たちを中心に、しかし菊池の魅力に自信を持った地域住民全員が案内人となって訪れる人たちと積極的に交流を深めます。

菊池市民広場は車の他バイク、自転車や徒歩などにも対応する拠点として再整備され、ここを中心に市街地散策がおこなわれます。

市街地に残る歴史的な建物は住まいとして、あるいは趣味を見せる場として、またはチャレンジショップとして、など様々な用途に利用されます。傷んでいる建物は地域住民や観光客の学習を兼ねたワークショップや、あるいは大工養成の研修の場として行政からも

支援し、地域みんなで修復していきます。

菊池高校では菊池・隈府の歴史を地域の方々とともに学んだ高校生たちがその歴史を踏まえ、地域の方々と協働で文化祭を開催します。

10年後

菊池の魅力は中心市街地に留まらず、菊池の山間部、七城、旭志、泗水の地域でもそれぞれの地域に根ざした魅力が再認識され、周遊コースが作られて、市民広場・隈府温泉街を中心に菊池市に中・長期滞在する方が増えていきます。そして歴史や食べ物（農産物）の魅力で菊池のファンとなった方々が旅行に留まらず、移住を考えるようになります。また、事情などで地元を離れていた人たちもその魅力を再認識し、かえって来るようになります。その頃には、建物や景観は地域住民や大工によってきれいにされ、歴史的な外観に配慮しながら暮らしやすい建物が増えています。

地域の方々も、自らその歴史を学び、菊池の持つ魅力に自信を持ち、きちんと次の代、次の代へと語り継ぐことが出来るようになっていきます。

20年後

元からいた方も、移住してこられた方も、ともに菊池が好きな住民として暮らしながら、その菊池を自分たちで語り継ぎ、自分たちで守り、あるいは更により良いものにして菊池の歴史を繋いでいきます。